「広島神楽」定期公演へようこそ!

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。

当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。

ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1)座席での飲食は出来ません。ロビーをご利用下さい。
- (2)上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3)お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で 危険な場合がございます。着席での鑑賞をお願いします。
- (4)撮影について
- →写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
- **※ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。

(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

7月13日のタイムスケジュール

出演:筏津神楽団(北広島町)

19:00~開演

19:05~第一幕『神武』

(およそ 40 分)

~幕間 (休憩)~

20:00~第二幕『八岐大蛇』

(およそ 40 分)

20:45~記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をして いただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。 本日の記念に是非ご参加下さい。

また、神楽団との交流もしていただけます。 疑問に 思ったことなど、直接団員にお聞きください。 (舞台へは顧を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございます ので、あらかじめご了承ください。

筏津神楽団は、天保13年(1842年)筏津若衆連によって神楽奉納されたと、地元・枝宮八幡神社の社伝記に記載されております。発足はその頃と思われます。矢上系旧舞を基本とし、昭和に入り高田舞(新舞)を美土里町の団体から習得、幾多の先輩諸氏によって習い、受け継がれてきました。

現在、団員は23名で10代~70代の幅広い年代で構成しております。地元、大歳神社での奉納神楽を始め、各地の奉納神楽、競演(共演)大会への出場、イベント、アトラクションなどの出演を行っています。

今後とも温かいご声援、ご指導をよろしくお願いいたします。

第一幕『神武』(じんむ)

・・・・ 保本

神倭磐余彦命(かんやまといわれひこのみこと=神武)は、「どの地を都とすれば天下を治められようか、東方をめざそう」と、 日向の国・高千穂を出発し、大和の国へ着きます。この地で長髄彦(ながすねひこ)の軍と戦いますが、苦戦の末、神武の軍は南に 向かい、熊野から大和を目指します。

険しい山々と土着の豪族との戦いを重ねながらも天津神(あまつかみ)の使い・八咫烏(やたがらす)の導きによって大和・畝傍山(うねびやま)の山麓、橿原(かしわら)の地に辿り着き、ここを都として天下の統一を計るという物語です。

 大太鼓 · · · 水 口
 一 真
 神倭磐余彦命 · · · 大 上
 顕 男
 長
 髄
 彦 · · · 前 河
 伸 弥

 出
 小太鼓 · · · 今 同
 友康
 道
 臣
 命 · · · 今 田
 拓 也
 兄
 磯
 城 · · · · 水 口
 貴 大

 演
 手打鉦 · · · 鉄 穴
 博之

 八
 咫
 烏 · · · 吉
 秀 樹

第二幕『八岐大蛇』(やまたのおろち)

愛美

出雲の国に暮らす足名椎(あしなづち)・手名椎(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稲田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた須佐乃男命(すさのおのみこと)が通りかかり、その訳を聞きます。

命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

大太鼓 … 今 田 修 類佐之男命 ・・・ 上 田 守」大 蛇・・・・吉岡 秀樹」大 蛇・・・大上 顕 男 足名椎…堀内 博之 大 蛇・・・水口 一真大 蛇・・・今田 田 小太鼓 · · · 鉄 穴 一生 拓也 演 能弘 手名椎…渡辺 大 蛇・・・水口 貴大大 蛇・・・今岡 手打鉦 · · · 小 田 敏 臣 友 康 愛美 櫛稲田姫 ・・・ 前河 伸弥 ・・・・ 保本